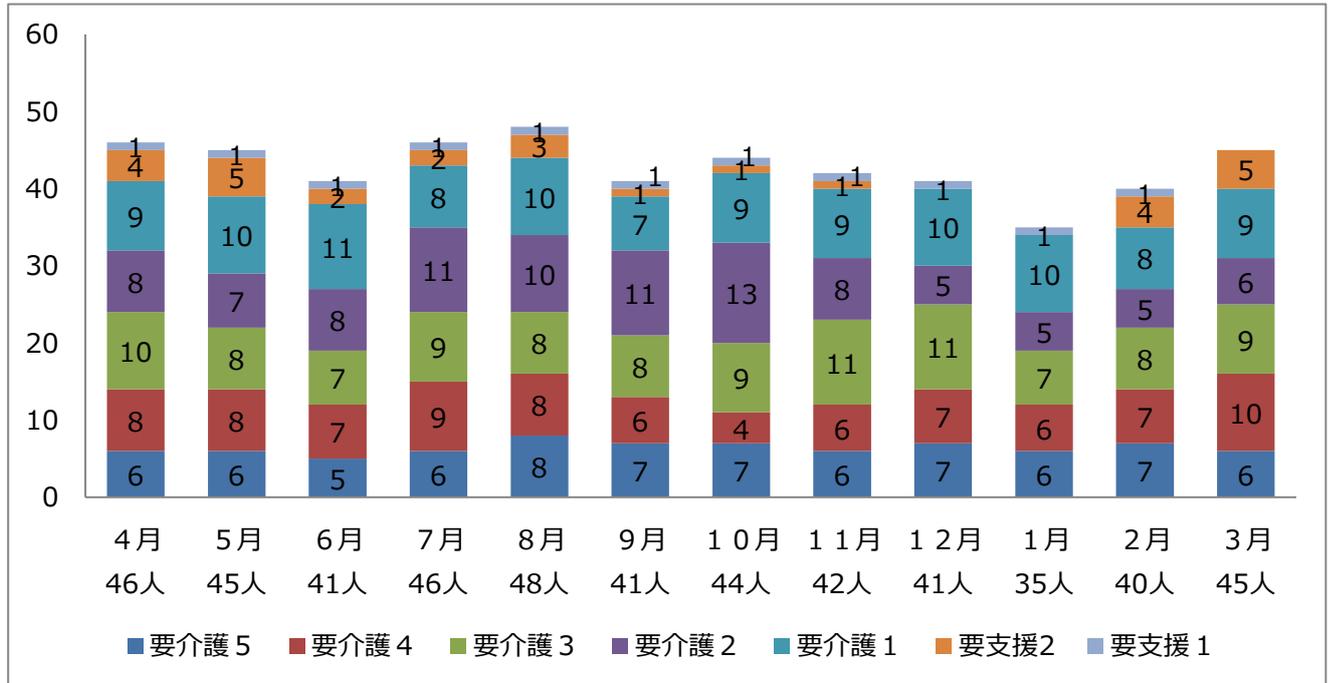


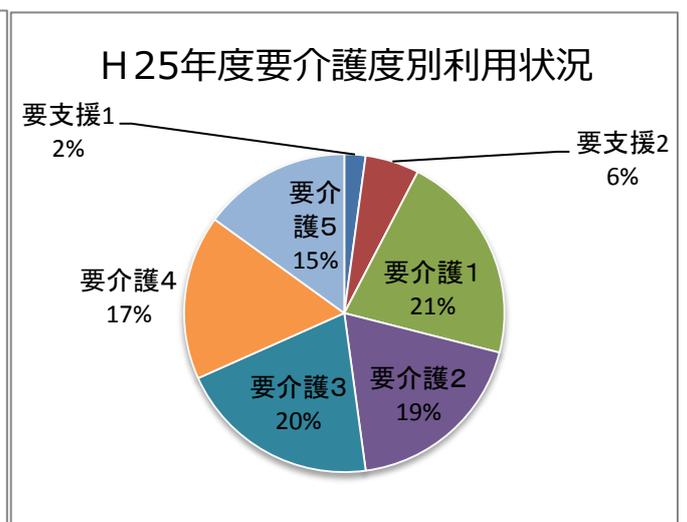
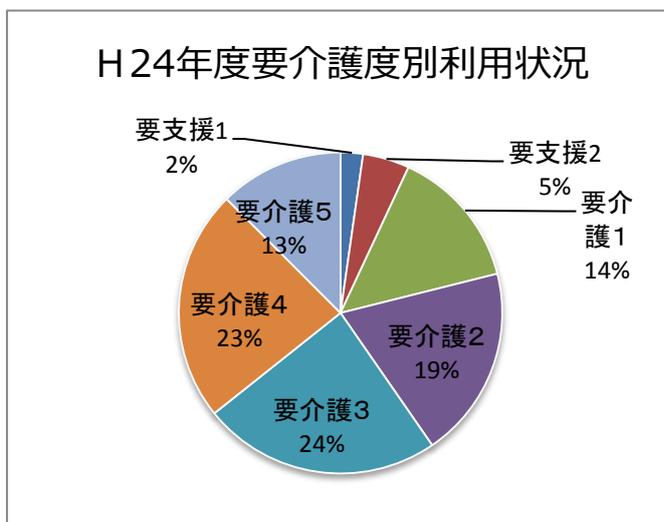
# 平成25年度の現状

## 《要介護度別利用状況》

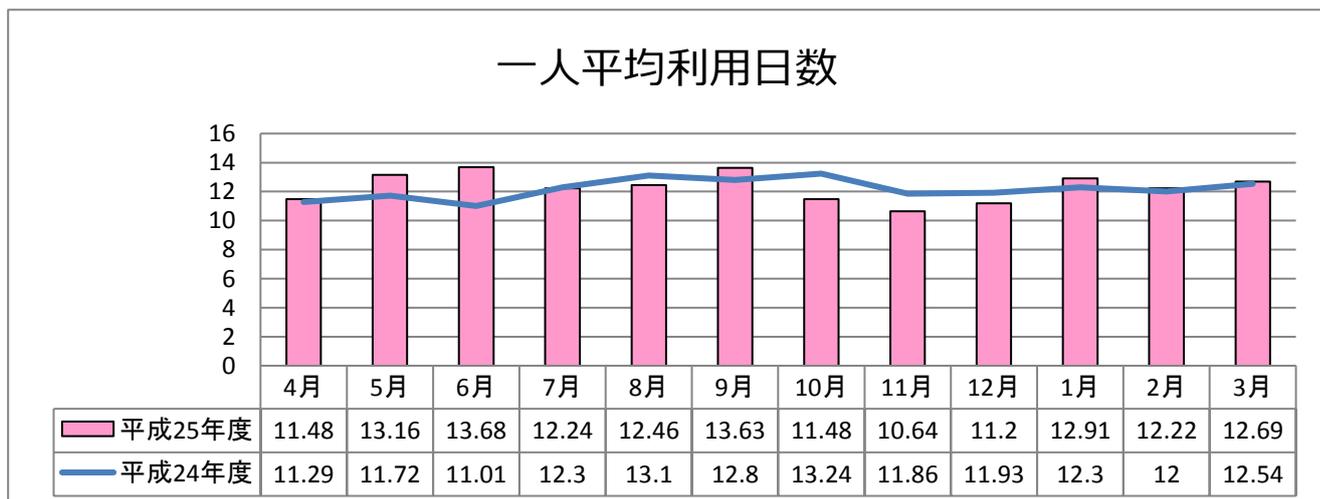
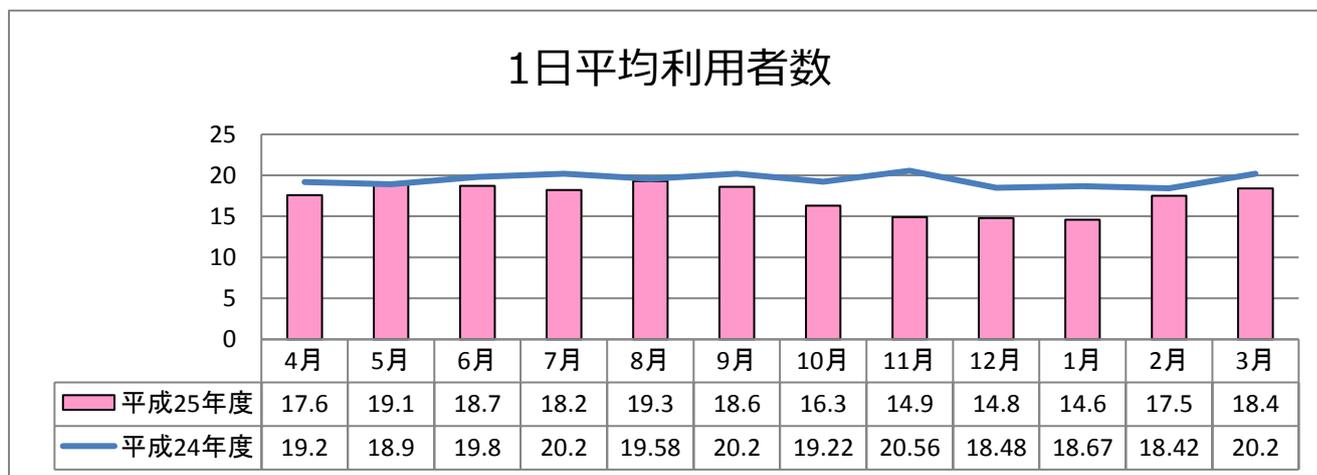
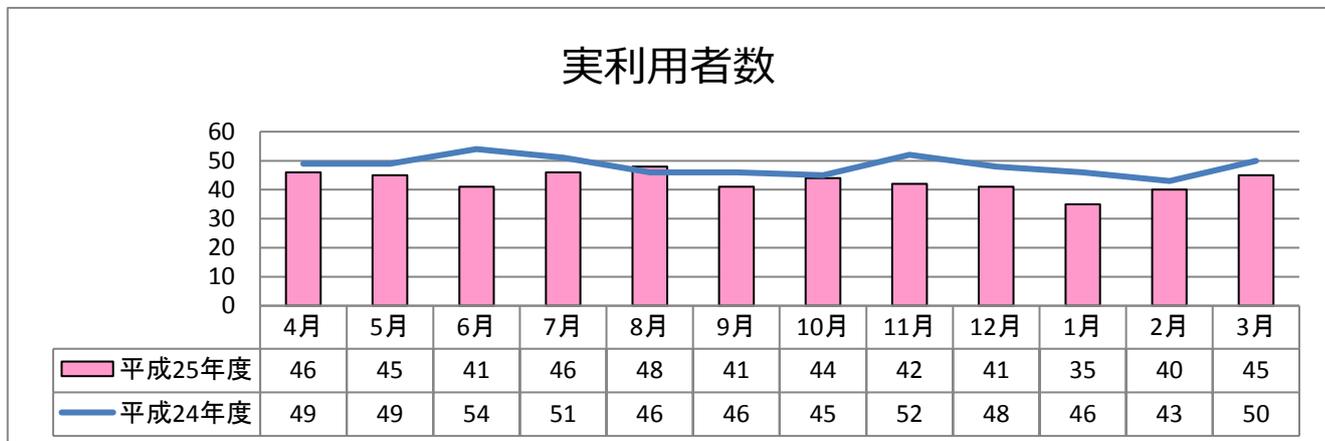


## 《利用者の平均要介護度》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成25年度	3.01	3.1	3.07	3.14	3.1	3.2	2.95	3.05	3.11	3.25	3.22	3.14	3.12
平成24年度	2.9	2.9	2.85	2.9	2.8	2.9	3	2.8	2.6	2.6	2.8	2.7	2.8



前年度に比べると平均介護度が2.8から3.12と上がっている。要介護度別利用状況で比較すると、要介護3・4の方の減少理由は、長期的な利用の方が施設入所されことや、体調不良により入院、また死亡と言うことがあげられる。また、要介護1の7%増については、他のサービスと組み合わせて利用しながら在宅生活されている方の利用日数が徐々に増加している事、また新規利用者の増加がある。

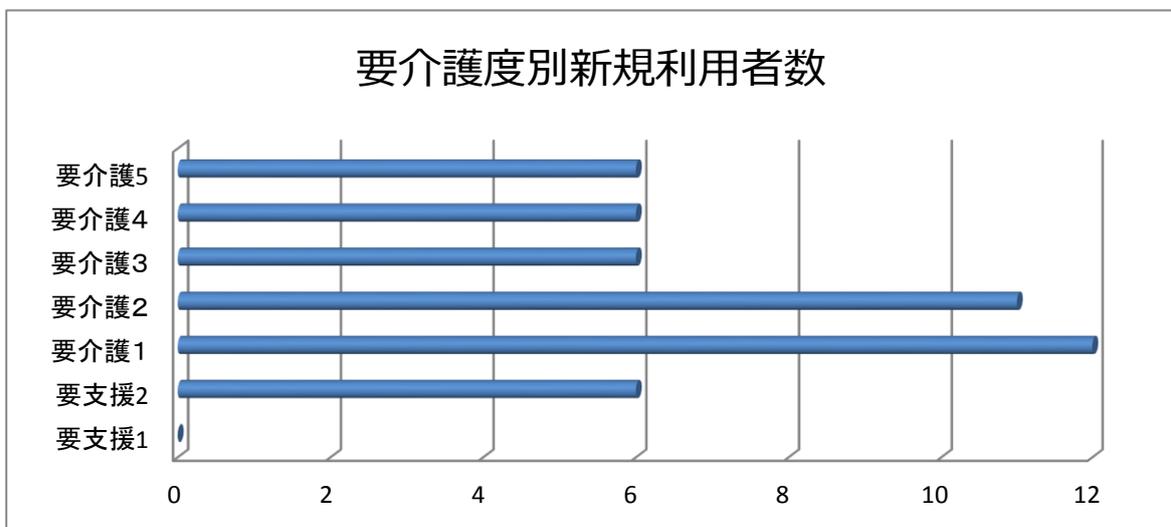
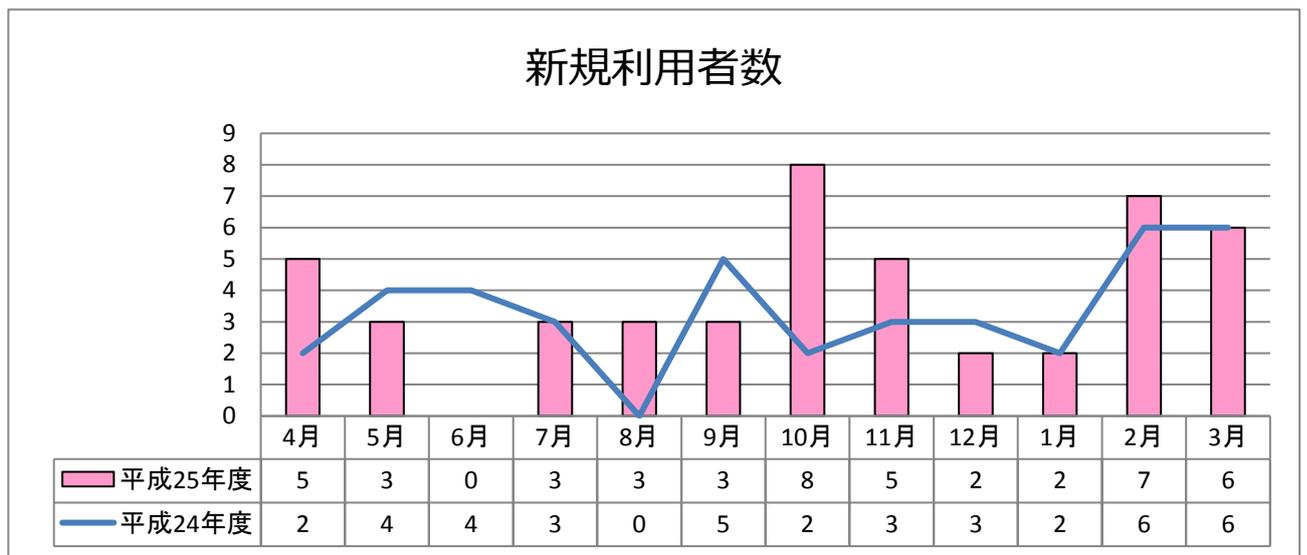


長期的利用者の入所・入院等により、延べ日数は減少している。しかしショート床の空きがある事で、利用の変更や緊急時の受け入れ、新規の方の利用調整等に対して柔軟な対応ができた。

《居宅介護支援事業所毎の利用者数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
清水園	26	25	25	30	31	28	26	22	22	22	24	25	306
蛍水荘	2	2	2	3	2	3	4	4	4	1	2	2	31
ひらまつ病院	7	6	4	3	6	3	7	8	8	9	5	8	74
その他	11	12	10	10	9	7	7	8	7	3	9	10	103
合計	46	45	41	46	48	41	44	42	41	35	40	45	514

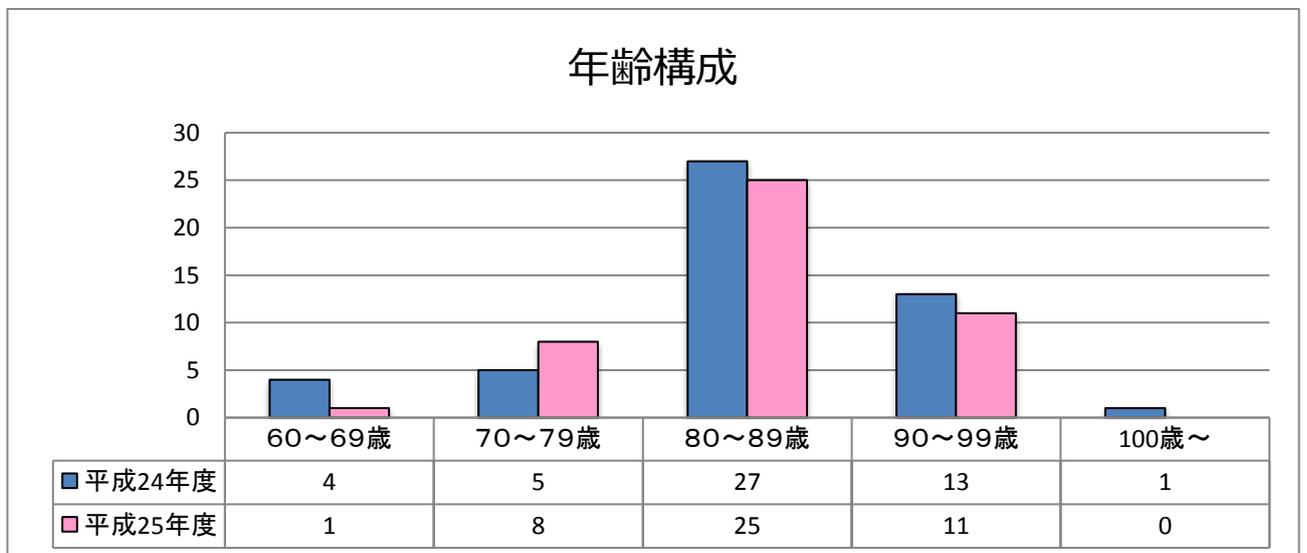
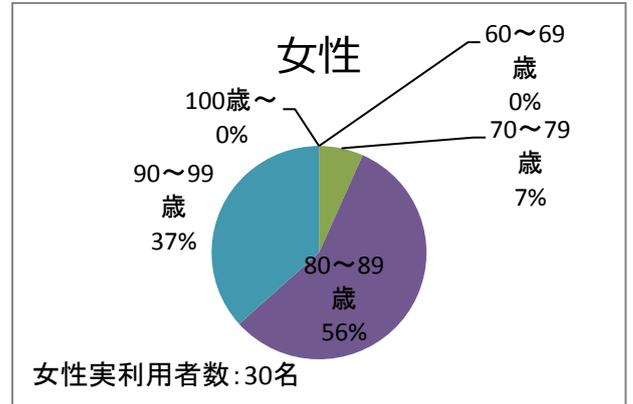
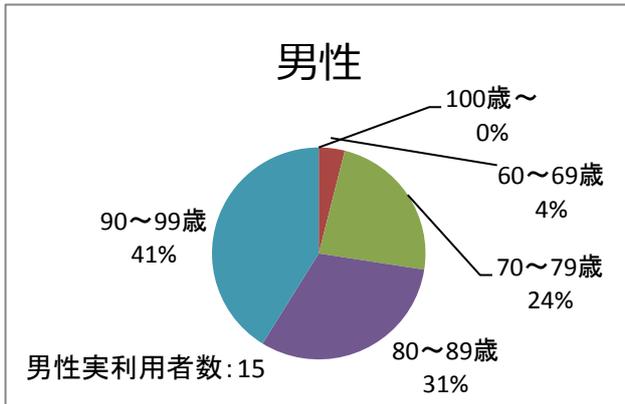
《新規利用者数》



《利用者の年齢構成》

※ 3月実績より

男性最高年齢 87歳      男性平均年齢 79.33歳  
 女性最高年齢 97歳      女性平均年齢 87.00歳      全平均年齢 84.44歳



# 平成25年度の主な取り組み状況

## 【食事】

自宅での食事内容や利用者様の嗜好を確認し、管理栄養士と相談しながら食事の提供を行った。状態に合わせた食事形態の変更も対応できている。一部の方は主食をオニギリにする事で摂取量の安定や介助量の減少、食べる事に対する意欲を引き出すきっかけへとつながった。食べるのがゆっくりで時間がかかる方は、自宅同様に時間をかけて食べて頂けるように食事場所を検討し対応した。また、花見弁当や敬老祝賀会の食事は利用者・家族様ともに好評で、毎年楽しみにされその日に合わせて利用を希望される方もいる。引き続きどうしたら自分で食べる事ができるか、おいしく食べてもらうことができるかを考え、自立支援に向けて取り組んで行く事が必要である。

## 【排泄】

自宅での状況だけでなく他のサービス利用時の状況等を情報収集し、統一した排泄介助を行うことに努めた。利用日数が長い方には継続的な支援を行い、終日オムツ使用だった方が日中はトイレ(ポータブルトイレ)で排泄が可能になった方もいる。また、トイレ(ポータブルトイレ)への介助を行うことにより、立位も安定されるようになった。排泄に関する一連の動作が安定する事により、自宅での生活に対する不安を軽減する事もできた。

## 【入浴】

利用日数に合わせて入浴日を調整してきた。毎日の入浴希望や個浴・特浴等一人ひとりの状態に合わせて随時対応できている。皮膚トラブルを見つけた際は早めに家族様に連絡し、悪化予防に努めた。夕方以降の入浴が習慣になっておられる方もおり、今後は入浴時間の検討・調整も必要である。

## 【認知症ケア】

認知症実践者研修での自施設実習等を通して認知症に対する理解を深め、その方の気持ち・思いを考え受け止めて関わる様に努めた。今までの自分たちのケアを振り返り気づきを得る事で、次のケアに活かすプロセスを習得した。

例として動かれる方に対し行動制限を行わず自由に動いてもらう事で(事故予防のために見守りは行った)、興奮される頻度が減り笑顔が多く見られるようになった。

そして施設で働く職員が認知症の方にとって第一の環境であることを自覚しケアをする事により、以前より穏やかに過ごせる環境へと変化しつつある。施設は自宅とは全く異なる環境である為、安心して穏やかに過ごして頂けるよう、継続的に認知症ケアについて学びを深め、また利用者様一人ひとりへの理解を深めていく必要がある。

## 【ケアプラン】

居宅ケアマネジャーと連携し、ケアプランを作成している。介護者の介護負担軽減が主な理由である。本人・家族様ともに安心して利用できる事で、自宅での生活が継続できている。しかし、生活歴をはじめ暮らしの情報についての情報収集がまだまだ不十分な状態である。自宅と変わらずいつも通りにその人らしく過ごして頂けるように、さらにアセスメントを行い取り組んでいきたい。